

危機が入れ子構造になった時代に求められる 「サステイナブルな資本主義」

「入れ子構造の危機」とは

中島(司会) ガブリエル教授は、現在の世界を「入れ子構造の危機」と表現されていますが、その意味を教えてください。

ガブリエル 現在の社会は、危機が危機を相互に生じさせる「複合危機」の時代を迎えています。例えばロシアによるウクライナ侵略を見てみますと、欧州グリーン

ディールと関わっています。欧州グリーンディールは、気候的・経済的危機が原因となって採用された、化石燃料からシフトするエネルギー戦略です。このように危機が互いに影響し合う複雑系の状況を「入れ子構造の危機」と呼んでいます。

十倉 入れ子構造の危機とは、まさに絶妙な表現だと思います。現代は、様々な危機が相互作用を起し、また結果も相互に影響し合う、

まさに複雑系の危機と言えるでしょう。これらへの対応として、一つの答えだけで解決するとは思いません。さらに問題を複雑にしているのが、一国だけでは決できない地球規模的な課題が増えてきたことです。ところが世界は分断の方向に走っており、非常に難しい時代であると感じています。



「企業には道徳科学に
則った新たな価値判
断が求められている」

資本主義の課題

中島 「入れ子構造の危機」の背景に、資本主義そのものの課題があるとすれば、資本主義のあり方について、それぞれどうご覧になりますか。

十倉 資本主義は非常に優れた制度です。しかし、行き過ぎた株主資本主義と市場原理主義が様々な社会課題を引き起こしています。全て市場原理で解決できるという考えに立つ限り、格差の拡大や固定化、また生態系の崩壊や気候変動の問題などは解決できません。ケインズは「経済学は道徳科学である」と述べました。我々企業も、道徳科学に則った新たな価値判断が求められるのではないのでしょうか。

Profile マルクス・ガブリエル

1980年生まれ。2005年に後期シェリングをテーマにした論文でハイデルベルク大学から博士号取得。2009年に権威あるボン大学哲学正教授に史上最年少で抜擢。「新実在論」を打ち立て、世界的に注目を浴びる。『なぜ世界は存在しないのか』は、哲学書としては異例のベストセラーに。

思決定し、成長していくことができるのです。世界が分断化しているからこそ、全世界的に人類が協力する新しいモデルが必要です。それを支えられるのが企業であり、ビジネスであると考えます。経団連もまた、ビジネスの観点から新しい社会や価値観を作ることに貢献できるのではないのでしょうか。

十倉 我々企業が社会に果たす役割は非常に大きいと確信できました。今後もガブリエル教授とともに、国境を越えて新しい資本主義を考えていきたいと思っています。

中島 本日はどうもありがとうございました。
(2023年5月8日 経団連会館)

「ビジネスの観点から 新しい社会や価値観 を作る」

十倉 資本主義の課題を克服するのもまた資本主義ということですね。私も経団連会長に就任した際、“from the social point of view” (社会性の視座) をキーワードにしました。産業界も社会性の視座を持ちながら、サステイナブルな資本主義を築くべきでしょう。

未来社会のあるべき姿

中島 最後に、未来社会のあるべき姿についてお聞かせください。

十倉 人間の特殊性が社会的に結び付き、花開くような社会を志向したいと思っています。そのための最重要課題は自由の担保であり、それを可能にする現在の民主主義体制をいかに維持するかが課題になると思います。

ガブリエル 民主主義には、意図しない結果が生じた場合も、それを自己修正する力があります。我々は試行錯誤しながら意

※ 対談の詳細は、21世紀政策研究所ウェブサイトを参照

